

第3回宮城県新型コロナウイルス感染症対策本部会議報告

上記会議が、令和2年2月29日（土）午前11時から宮城県庁行政庁舎4階特別会議室で行われた。

出席者は、村井嘉浩知事はじめ副知事、各部長など16人で、宮城県医師会からは、会長の佐藤が出席した。

仙台市に於いて、新型コロナウイルス感染症患者の発生を受けて、急遽開催されたものであり、詳細は当日の午後2時から開催された宮城県医師会の新型コロナウイルス感染症対策本部会議において、報告した（藤盛常任理事の報告に詳しくあるので、ご覧いただきたい）。

私からの要望を聞かれたので、以下述べさせていただいた。

1. PCR検査は、3月の初めの週に保険適応になり民間の検査所でも可能となると言われているが、是非地元での検査場所も増やすよう要望する。
2. 現在、帰国者接触者（帰接）相談センターへ相談した場合、帰接外来（非公開）へ繋いでもらえない例もあるが、医師が必要と判断した場合は、帰接外来へ繋いでほしい。
3. 帰接外来は、16か所で、1日当たりの診察可能人数は、およそ20人程度と言われている。この外来場所を少なくとも30か所位に、診察可能人数を1日100人程度になるように、とりあえず増やすように要望したい。
4. 感染症指定医療機関は7病院、29床であり、入院受け入れ協力医療機関は3か所であると言われているが、本当にこれで十分なのか検証してほしい。
5. 蔓延期には、開業医などの一般の医療機関で診察し、PCR検査なども行うことが期待されているが、新型インフルエンザの時は、迅速診断キットやタミフルがあったが今回は両方とも無い状態である。また鼻腔のぬぐい液などを採取する場合は、N-95マスク、ゴーグル、防護服などの予防が必要であるが、これも現在不足している状態である。また検体採取は、医療者への感染のリスクが高い検査で、一般の医療機関でこれらを行うことは、十分な議論が必要である。
6. 最後に、マスクや消毒液などの不足も深刻であり、再度、医療機関への優先的な配分をご考慮願いたい。

令和2年3月2日

文責：佐藤和宏